

12月15日正午必着

明石春浦先生書



一家父子相和処談笑自成天楽聲 (井上圓了格言集)

一家父子相和する処談笑おのずか自ら成る天楽の聲

森戸春濤書



智者應機ちしやはきにおうする (蜀志) 賢い人は、好機を見て事を行う。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

獨釣寒江雪 (柳宗元)

獨り釣る寒江の雪

雪の寒江に独り舟を浮べて釣りする。

孤舟暮歸去 別路江南樹  
煙外有鐘聲 故人在何處 (王瑤湘)

孤舟暮れに歸り去る 別路江南の樹  
煙外鐘聲有り 故人何處に在る

夕暮に君を乗せた舟が帰って行った。別れ行く江南の木々に夕もやがかり、もやの彼方から鐘の音が通って来る。君は今どこあたりにおられるやら。故人とは親しい人。

游東林寺 (黄滔)

東林寺に遊ぶ 黄滔

平生愛山水 下馬虎溪時  
已到終嫌晚 重游預作期  
寺寒三伏雨 松偃數朝枝  
翻譯如曾見 白蓮開滿池

平生山水を愛す 馬を虎溪に下る時  
已到って 終に晩きを嫌い 重ねて遊ばんこと  
寺は寒し 三伏の雨 松は偃す 数朝の枝  
翻訳 曾ち見るが如し 白蓮 開いて池に満つ

預め期を作す

君かへす 朝の舖石 さくさくと 雪よ林檎の香のごとくふれ (北原 白秋)



明石幸子書

勸君金屈卮 滿酌不須辭  
人生足別離

(于武陵)

花はいつまでも咲きほこっていない。人生すべてを会者定離。なみなみとついだこの盃、さあ、お乾しなさい、くよくよせず。

半紙部規定課題A

12月15日正午必着

閑意 亦有棲

※作品には必ず落款を入れてください。

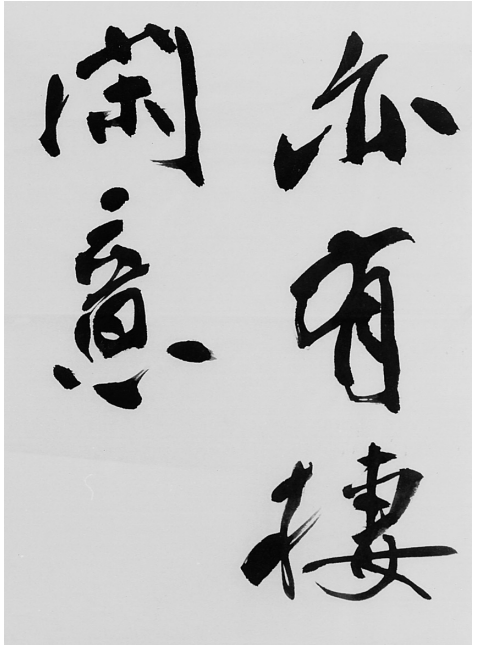
明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

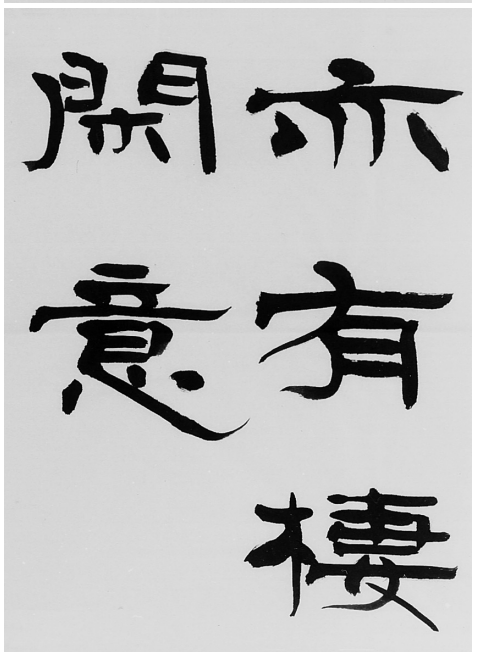
半紙部規定課題B

12月15日正午必着

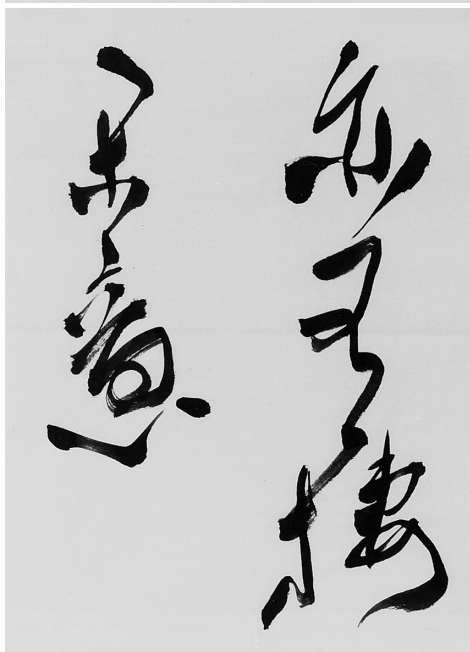
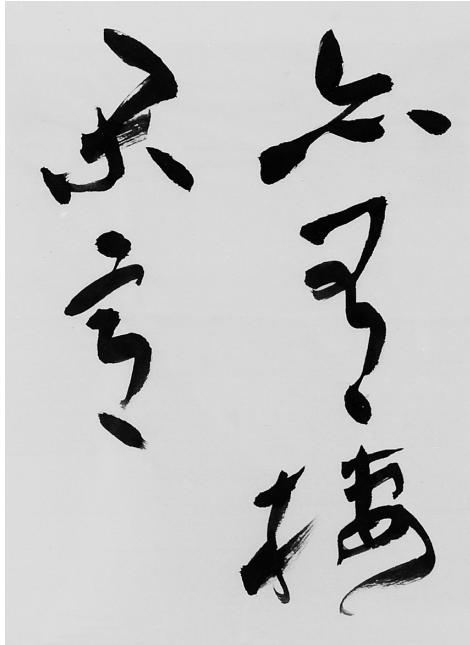
行書



隸書



明石春浦先生書



草書

行草書

お逢いしても何のもてなしもできず、ただともに道を語り合うだけ、貧乏なことは誰でも周知のこと  
帰り行く道すじに、降り残る雨は分たれて 舟をとどめ、親しき友に別れをつける  
松木立の茂る山上の夜明け、霜が明るくかがやき 竹やぶの中の住居は春となり、花のしげみは暗い  
私もかねがね隠遁したいとは思っているのだが、いつになったら、君の住む山中に身を寄せることができるのだろうか

送三人歸山

石召

相逢惟道在  
誰不共知貧  
歸路分殘雨  
停舟別故人  
霜明松嶺曉  
花暗竹房春  
亦有棲閑意  
何年可寄身

人の山に帰るを送る

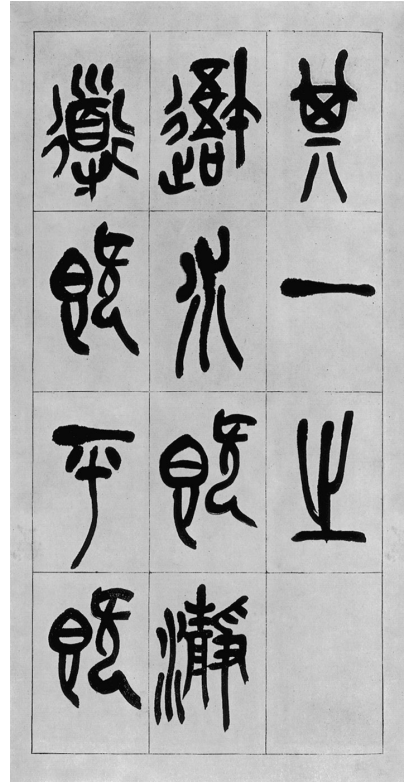
石召

相逢うて 惟だ道のみ在り  
相違ふて 誰か共に貧なることを知らざらん  
帰路 残雨を分かち  
舟を停めて 故人に別る  
霜は明らかなり 松嶺の暁  
花は暗し 竹房の春  
亦有棲閑の意有り  
何れの年か 身を寄す可き

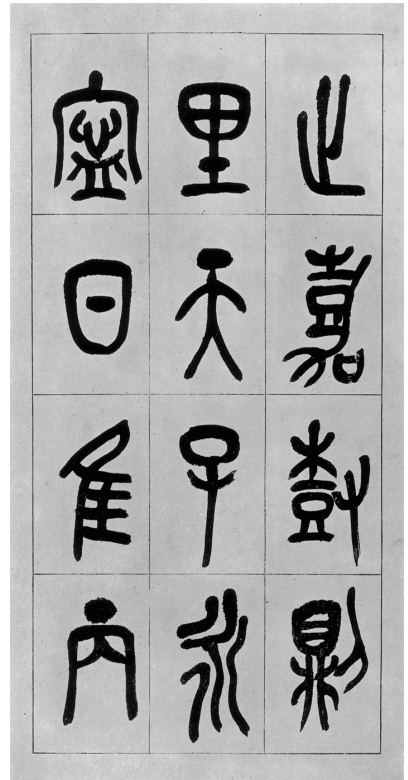
(出典)  
朝日新聞社刊  
「三体詩」下より



三浦士岳先生臨書



其一。...之。避水既澗。避導既平。避...既止。嘉樹則里。天子永寧。日佳丙



清 吳昌碩 臨石鼓文

吳昌碩は一八四四年（道光二十四年）に、浙江省安吉縣村の挙人の家に生まれ、一九二七年（中華民國十八年）十一月、上海の寓居で卒した。名は俊、俊卿、字は昌碩、蒼石、倉石、号は缶廬、苦鉄、石人子など数多い。はじめ父の辛甲から教育を受け、十歳の頃には隣村の私塾に通い学んだ。十七歳の時、太平天国の乱によって一家は離散、彼は湖北省・安徽省を転々として難を逃れ、五年後の二十一歳の時ようやく故郷へ戻った。二十二歳の時、試験を受けて「秀才」の資格をとったが、官界にはあまり興味をもたなかったという。二十九歳のとき故郷を出て、杭州・蘇州・上海に遊学し、多く文人から影響を受けた。詩・書・画・篆刻ともに精通し、「四絶」と称賛され、清代最後の文人といわれた。石鼓文は中国最古の石刻で、太鼓状の石に刻されているのでこの名がある。高さ約九〇センチ、直径六〇センチほどで、全十石から成る。小篆と古文の両面を備えており、吳昌碩の臨書は原本の石鼓文よりさらに縦長になっている部分が多くある。特に脚部にそれを見ることが多く、小篆に近い姿になっているといわれており、原本と比較しながらの臨書も重要な臨書姿勢ではないか。この臨書は七十五歳の時のもので、技術的に完成した傑作といわれている。（春濤）



(半折¼)

鶴<sup>かくし</sup>壽<sup>じゆせんざい</sup>千歳

(淮南子)  
鶴は千歳の壽を保つという

△做書参考作品▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



避水既澗。避導既平。避：既止。嘉樹則里。天子永

12月15日正午必着

教育部毛筆



たい  
滞

ざい  
在

中学一年

雨宮春聲先生書



りょう  
料

てい  
亭

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



こ

てん

小学五年

榎戸春龍先生書



せい

じ

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



12月15日正午必着



ひ な た  
日 向

小学三年

藤田幸春先生書



ねん まつ  
年 末

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

や ぶ 小学一年・幼年



森戸春濤書

た 立 つ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

る	夕
兆	焼
候	け
だ	は
と	晴
い	れ
う	にな

小学五年

来	きれ
人	いな
た	な
ち	地
に	球
を	を
残	未
そ	
う	

小学六年

静	気
か	持
な	ち
心	を
で	落
考	ち
え	着
て	か
み	せ
る	て

中学

い	年
心	内
忙	も
し	残
い	い
毎	少
日	な
です	な

一般(級位)

冬	冬
の	の
朝	朝
ま	ま
つ	つ
し	し
き	き
宿	宿
の	の
味	味
噌	噌
汁	汁
の	の
に	に
ほ	ほ
び	び
と	と
も	も
に	に
お	お
き	き
い	い
で	で
に	に
け	け
り	り

一般(段位)

ふゆのあさ まつしきやどのみそじゆの にほびともにおきいでにけり (前田夕暮)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

は	け
	い
あ	と
た	の
た	ぼ
か	う
い	し

幼年

ほ	つ
ん	く
ば	え
こ	の
を	左
お	に
く	

小学一年

が	夜
	中
な	に
り	サ
ひ	イ
び	シ
く	ン

小学二年

ど	数
の	え
人	切
が	れ
い	な
る	い
	ほ

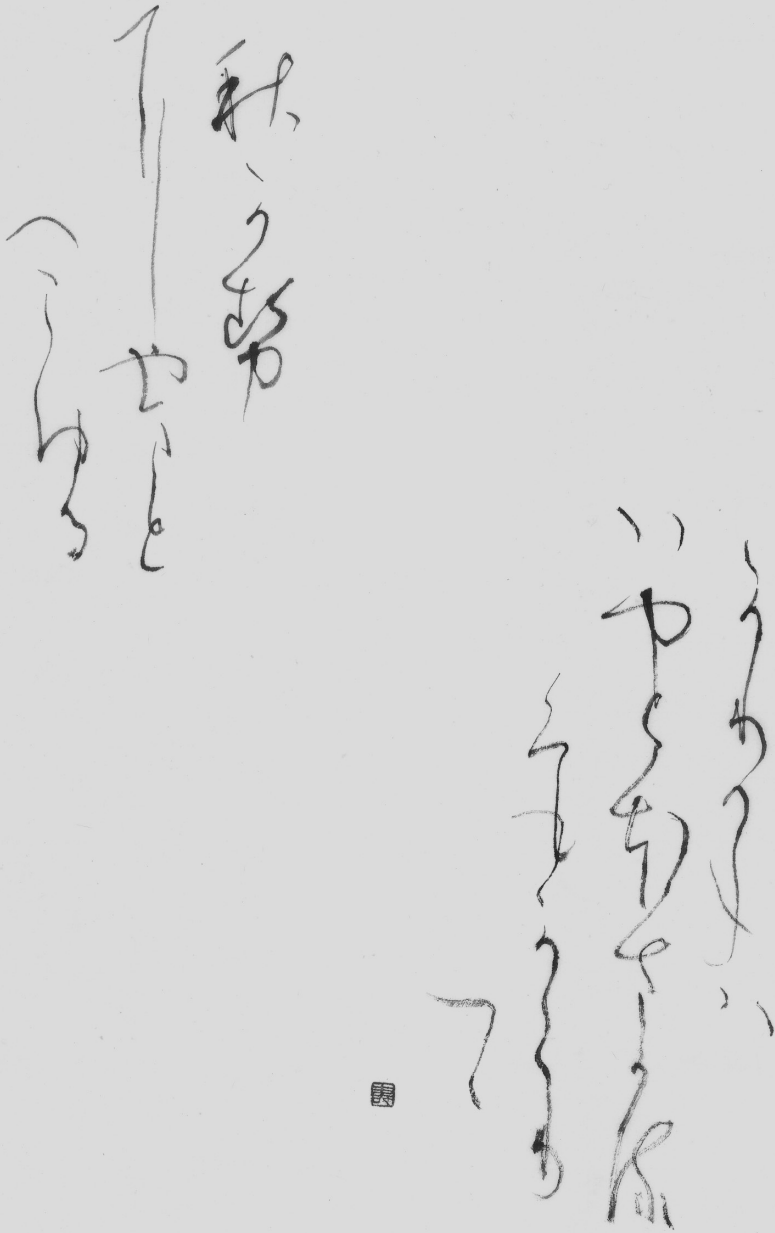
小学三年

が	て
真	い
っ	電
暗	で
に	町
な	じ
っ	ゅう
た	

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



秋かぜに 可勢耳 やまとへこゆる 万 かりがねは 可利可年八 いやとほざかる 本可流 くもがくりつゝ 毛可利 (万葉集・作者未詳)

岩本景楓先生書